

三浦謹之助留学中書簡

三浦 恭定

自治医科大学名誉教授

はじめに

本資料は、祖父三浦謹之助(東京大学名誉教授)が留学中に義父三宅秀その他の親戚に送った手紙20余通を訳読したものである。三浦は1887年東大卒業、1889年有栖川宮等の付添医として随行し各国を巡覧の後、1890年私費留学に切替えた。ベルリンではゲルハルト(内科)、ウイルヒョウ(病理)等に師事。その後、マールブルク、ハイデルベルク等に移り神経内科学を中心に学んだ。1892年パリに移り円熟期のシャルコーから神経内科学を学ぶ。1892年軍艦松島の回航に便乗して帰国した。資料には当時の有様が克明に報告されている。若い時代の感想は新鮮であり、医学の一断面としても貴重な物と考え、酒井シヅ教授その他の御勧めにより投稿した。

1889年始め頃 留学直前

福島市の草野喜右衛門家⁽¹⁾に宛てた手紙

拝啓仕候。然は今般有栖川宮⁽²⁾及び加賀侯⁽³⁾御洋行被遊候ニ付、小生も加州侯ニ付同行仕候事ニ相成、昨夕漸ク取極り申候。甚至急の事ニテ廿七日ニハ横浜出立の都合ニ御坐候故帰国御暇乞も出来不申候。加州侯ハ方今病氣ニテ熱海へ参ラレ候故小生も熱海へ参ル積りニ候。毎日用意の為メ奔走罷在候。先は三年間欧州滞在ノ積リニ候間右申上度、如此ニ御坐候。頓首

小生留守中ハ御身ノ上大切ニ願候。

御叔父母上様へも宜敷御伝声の程奉希候。

三浦謹之助

御従兄上様

別ニ小生ハ随行と申訳ニハ無之候へ共片道ハ内々随行の積リニ候。

- (1) 草野喜右衛門 三浦謹之助の従兄。福島市で仏壇・漆器等を扱う老舗を営む。
- (2) 有栖川宮威仁(たけひと)親王 明治22年2月より23年4月迄欧州各国の軍事視察として渡欧(27-28歳)。慰子(やすこ)妃も同行。慰子妃は前田利嗣侯爵の妹。
- (3) 加賀侯 加賀藩主前田慶寧侯爵の長男 利嗣侯爵(30歳)。朗子(さえこ)夫人も同行。朗子夫人は佐賀藩主鍋島直大侯爵の長女。

1889.2.4. 従兄の草野氏に宛てた手紙

拝呈仕候。然は小生出立の儀は憲法発布⁽¹⁾ニ付遅引相成候故定メシ十一日後ニテ大凡十六日頃可相成候事と奉存候。然シ今日ニ至迄時日ハ未ダ確定不仕候。夫故書状モ延引仕候。不悪御思召被下度候。先日は金拾円也御餞別トシテ御送被下正ニ落掌仕候。甚恐入候次第ニ御坐候。御伯父母上様へも宜敷奉希候。

又小生の旅行ハ始メ印度海ヲ通り候筈の処今度ハアメリカヲ廻リ欧州ニ参リ候様相成候筈ニ候。宮様はアメリカニ御用出来候様子ニ候。益々都合宜敷事ニ御坐候。アメリカニ廻ル事ハ容易ニ出来不申候故若シ左様相成候ハ、好都合ニ候。

飯田町御伯父様⁽²⁾一昨日迄ハ変り無之候処、昨日ヨリ言語不分明と相成手足の工合モ宜敷無御坐候。本日は小生ト省軒様⁽³⁾と参り候。先日ヨリハ悪キ方ニ候。先ハ大略申上度、草々

二月四日

三浦謹之助

御従兄上様

- (1) 明治22年(1889)2月11日明治憲法発布大典。紀元節。
- (2) 三浦有恒(1812-1890) 退之助とも云う。

文化9年奥州福島に生まれる。代々地方医を勤めるが、弟道生に家督を譲り江戸に出、適塾に学び福島藩医となる。維新後東京医学校教授、第二病院(現三井記念病院)に勤める。お玉ヶ池種痘所設立時に拠金。明治23年没。享年79。

- (3) 三浦省軒 福島生まれ。医師。最初三浦有恒の弟道生の養嗣子となるが、その後謹之助が生まれた為、有恒の養嗣子となる。伊東玄朴の象先堂に学び明治9年東大医学部(東京医学校)卒業(第1期生)。熊本・栃木・高知・新潟・山口等各地方病院長、東久邇宮妃殿下の侍医を勤める。

1889.6.13. 福島の草野家宛

拝啓仕候。然は小生二月十六日有栖川三品宮及び加州侯と御同船横浜を出発仕候。後は海上無異常三月四日ヲ以テ無事米国桑港⁽¹⁾ニ着仕候。此地ニハ大凡十日程滞在仕候て、夫より合衆国有名の都会ヲ一々見物仕、ニューヨークより四月四日ヲ以テ便船ニ乗ジ同月十六日無事佛国巴里府ニ到着仕、只今モ同地ニ滞在罷在候。米国ハ実ニ商業の盛なる所ニ御坐候て上手なる者ハ数年間ニテ巨萬ノ財ヲ致し候事ハ此度始めて実地ニ之レヲ見申候。御子息様ニハ何卒英語ヲ御教授被遊米国ニ御出被遊候様ニ致度切ニ希望致居候。尚ホ小生帰国の上萬可申上候。佛国巴里ハ当今萬国博覧会開設中ニテ非常ニ賑ひ居申候。御存知の通り此地ハ衣服裝飾等の流行を出す所ニテ世界の金ヲ吸取る所と申候ても宜敷候。然し其美麗ニして都合宜敷事ハ世界第一ニ候故米国ニテ金ヲ積ミ此地ニ来リ安居致居候者沢山有之候。萬国博覧会は非常ニ広く候て幾度モ参り候はでは見尽し申候事難く候。又九十丈程ノ高サノ塔ヲ立候事ハ多分新聞ニテ御承知と存候。是レハ皆鉄ニテ組立テ世界第一ノ高キ者ト申事ニ候。

宮様ノ一行ハ七月末迄此地ニ滞在仕、夫より諸国巡回の積リニ候。小生モ夫迄ハ此地ニ居リ申候。其後ノ様子ハ分り不申候。

先は右申上度、如此ニ御坐候。頓首

六月十三日

三浦謹之助

御従兄上様

- (1) 桑港 サンフランシスコ。

ここから義父三宅秀への書状(1から4号信は欠如)第5号信 1889.7月5日発信, 10月12日着信

一書拜呈仕候。然は小生事其後も亦無異消光罷在候間乍恐御安心被遊被下度候。

Rue de la Pompeニ移住候後宮殿下は斎藤氏⁽¹⁾吉井氏⁽²⁾と共に露国ニ御旅行相成、其留守中ニは前田御前様ルベオクト猩紅熱の間の如き御病氣ニ被罹一時は心配仕候へ共其後は全く御健全ニ被為成候。

小生事 Lancereaux 氏ニ會し同氏の病院ニ参り臨床講義を聞き、又同氏の照會ニ由り同じくアグレジスなる Remy ト申人ヲ知り申候。同氏は嘗て日本ニ遊び且ツ独乙語を能くし候故同氏ニ依頼シ数多くの病院ヲ巡覧仕候。殊ニ過日は Charcot 氏⁽³⁾の病院ニ参り同氏ニ面会致候所大ヒニ喜バレ其後も度々参り候事を約し申候。又方今は加藤恒氏と共に仏語の教師を聘へ仏語を稽古致居候。(其費用は前田侯より被下候筈ニ候)。又佛国の医書及び新紙を読ミ此滞在を仏語の研究と巴里府の視察トニ用ヒ度キ心組ニ御坐候。Pasteur 氏⁽⁴⁾をも問度存居候へ共未ダ夫迄ニ至り不申候。過日彼ノ皮膚病の蠟細工を見候処誠ニ能く整頓致居候故ニ其 Directeur⁽⁵⁾ニ話し時々参り候様致候。随分佛国ニテハ得る所多ク御坐候。他日此地ニテ少シク研究致度存候。必ず御許可相成候事と奉存候。

田中公使⁽⁶⁾の妻の親類ハ小石川竹早町辺ニ住居せられ候由ニテ小生の巴里ニ到着致候前報知有之候由被申候。過日又々宮殿下スパンヤ⁽⁷⁾ニ御旅行相成二三日御帰宅相成申候。吉井氏ハ尚ホ同地ニ滞在罷在候。

段々暑氣ニ相向候へ故スエツル⁽⁸⁾ニ向け御旅行相成候御話有之候へ共、此事は未ダ確定不仕候。若シ旅行仕候事ニ相成候へは来月早々ニ御坐候。若シ延び候へは八月中モ巴里ニ滞在ニ御坐候。仏語は未ダ充分ニ話セ不申候故小生は今少シ滞在の方宜敷候。

萬国博覧会ニは数度参り候へ共未ダ充分見尽シ不

申候。医学ノ部分丈は既ニ見申候。同博覧会は只々品物ノ博覧会ノミならず人種ノ博覧会ヲモ兼居候様ニ候。

昨日は安南国ノ戯芸ヲ見申候。又日本ノ風俗ヲ人形ニテ造リ候処有之候。

其内ニハ下等ナル日本人二三人見受候。嗚呼東洋ノ諸国は未ダ半開ノ地位ヲ免レ不申候は嗟嘆スルニ余リアリト奉存候。

教女⁽⁹⁾事如何致居候哉。定て勉強致居候事ト奉存候へ共米国及ビ欧州ノ婦人ヲ見ルニ付ケ女子ノ教育ノ肝要ナルコトハ益々感シ申候。然シ乍ラ米国モ佛国モ未ダ其ヲ得タル教育トハ存じラレ不申候。

田口和美氏⁽¹⁰⁾当地ニ滞在ノ由ニ候へ共未ダ面会不仕候。岡玄卿氏⁽¹¹⁾ハ当地ヲ過キ独乙へ参ラレ候由、之レモ面会ノ機会ヲ不得候。

先は右申上度如此ニ御坐候。頓首再拜

七月五日 謹之助
御父上様⁽¹²⁾

尚其内博覧会ノ図御慰迄ニ送り申候間御覽被遊被下度候。

- (1) 斎藤氏 斎藤桃太郎。宮家家令。
- (2) 吉井氏 吉井幸藏大尉
- (3) Charcot 氏 シャルコー。フランスの神経学者。
- (4) Pasteur 氏 パスツール Louis Pasteur。フランスの化学者・細菌学者。
- (5) Directeur 管理者。
- (6) 田中公使 田中不二麿。後司法大臣。子爵。
- (7) スペニヤ スペイン。
- (8) スエツル スイス。
- (9) 教女 三宅秀長女 教(おしえ)。帰国後謹之助と結婚。
- (10) 田口和美 大学東校勤務。明治10年より37年迄東大医学部解剖学教授。
- (11) 岡玄卿 明治9年東大医学部(東京医学校)卒業。東大医学部助教授・侍医を勤め22年3月より24年8月迄ドイツへ私費留学。侍医頭。男爵。
- (12) 御父上様 三宅秀の長女 教と婚約済で

あったので三宅秀(みやけひいず)を父上と呼ぶ。三宅秀はこの当時帝国大学医科大学学長兼病理学教授。学長は明治19年3月より23年11迄、又病理学教授は明治10年より26年迄勤める。貴族院議員外医学会の要職を勤める。

第六信 1889.8.28. 発信 10.13. 着信

従瑞西ゼネーフ⁽¹⁾(Hotel de la Paix⁽²⁾, Quai Mont Blanc)

此前ノ書状は八月八日ニテ御坐候処、十四日ニはRue de la Pompe ヨリ再ビホテル・ダルブ ニ転移仕候て巴里府内ノ知己ニ暇乞ニ至り、二十日は徳川奥国公使ガ宮殿下及ビ前田侯ヲ「ウェルサイエ」ニ招ガレ候故、小生モ随行仕王宮博物館及ビ庭園等巡覧仕候て同日帰巴仕、翌日則チ廿一日午後八時ホテルヲ出テ「ガル・ド・リオン」ノ停車場ヨリ瑞西国ゼネハニ向ヒ候。同日午後ニ出立前、在伯林ノ隈川君⁽³⁾小生ヲ尋ネ村田⁽⁴⁾・島田・大西⁽⁵⁾等ヨリノ伝言ヲ伝へ呉候。村田は肋膜炎ノ後未ダ全快不仕候由ニテ皆々帰国ヲ勸メ居候由残念ノ事ニ候。尾沢ハ途ニテ亡シ候由氣ノ毒ニ候。留守宅ノ感覚は如何アラント遥察仕候。

扱廿一日は最早時間モ無之候て隈川君ト久シク談話モ出来不申テ候へ共巴里市中ノ見ル可キ者ヲ話シ申候て別レ候。同氏モ来月始メハ帰国ノ由小生ガ巴里へ出立候ハ午后九時ニテ夜中途中ヲ通り廿二日午前九時半ゼネハノホテルニ到着仕候。此辺ハ巴里ノ雑沓ナルト違へ遠ク「モン・ブラン」ヲ湖上ニ望ミ遠震其間ニ横ハリ閑情幽雅ニシテ嘗テ米国ノナイヤガラニ至リシ時ノ感ヲ起シ候。此日は市中ヲ遊歩シ医事ニ関スル雑誌ヲ求メ候。翌日は湖上ノ汽船ニ乗ジテ近傍ヲ探リ、廿四日ハ病院ニ至リ孤兒院ヲ見、廿五日ハ博物館及ビ植物園ヲ見申候。ホテルニハ米国・英国・独乙・佛国人等数多居候て何レノ国語モ通シ面白ク候。本日はゼネハハ出立午後ローサン(Lausanne)⁽⁶⁾ニ至り、夫レヨリVerby, Bern, Luzern等ニ至ルト申事ニ候。小生ガ米国ヲ通行候節ノ日記様ノ者医学会ニ送り候事有之候へ共、其後如何ニ相成候哉、同雑誌ヲ見不申候故分リ不申候へ共其後ノ分を認メ候故、

御覧ノ上若シ以前ノ者載セ有之候て“未完”ト有之候ハ、御載セ被下度候。洋行セザル人ノ為メニ幾分カ面白キヤモ知ラント存ジ認め候。又過日江間三吉君⁽⁷⁾ノ書状ニ由レバ別ニ又医学会ノ出来候様子故以前ノ医学会ハ如何ナリシヤ其低ニ有之候ヤ不分明故此ク申上候。小生ノ考ニテハ何ニテモ時々日本ノ雑誌ニ出シ候方人ガ小生ノ名ヲ忘レザル為メニ善カラント存候。御考如何ナルヤ御教示被下度候。先ハ右申上度如此ニ候。頓首

八月廿六日 三浦謹之助 拜
三宅秀様

此書状ゼネハニテ認候へ共汽車ニテローサンニ至ル時間ニ相成候故ローサンニテ認め終リ申候。ベルツ氏ノ許ヘモ昨夜一書ヲ認め エヒノコックス⁽⁸⁾ガ肺中ニ出来、夫レノ后ニヒステル残り鼻口ヲ閉テモ呼吸出来候患者ニ付報告仕候。

ゼネハ病院ニテ見申候。

- (1) 瑞西ゼネーフ又はゼネハ スイス国ジュネーヴ。
- (2) Hotel de la Paix ジュネーヴに現存する湖畔のクラシック デラックスホテル。
- (3) 隈川宗雄 明治16年東大医学部卒業。私費にて17年10月より23年迄ドイツ ベルリン大学留学。24年より大正7年迄東大生理学・生化学教授。
- (4) 村田 村田謙太郎 明治17年東大医学部卒業。官費にて20年7月より23年2月迄ドイツ留学。24年4月より東大初代皮膚病学教授。25年6月病没。
- (5) 大西 大西克知(おおにし よしあきら)。眼科医。明治17年東大予備門入学。私費にて18年12月より23年6月迄ドイツ留学。後に九大教授。
- (6) ローサン スイス国 ローザンヌ Lausanne。
- (7) 江間三吉 加賀藩最後の藩医。
- (8) エヒノコックス エキノコックス。犬や狐の寄生虫。ヒトが感染すると肝機能障害等をもたらす。

第七報 1889.11.6.

英国竜動⁽¹⁾

九月卅日認メノ書状ヲ十月一日投函仕候後ハ如何ナルコトヲ致シ申候哉左ニ申上候。

先ツ十月二日より七日迄ハ別ニ是レト申候事無ク別ニ学ビ候事モ無之候。只夜分御息所⁽²⁾及ビ前田夫人ニ佛国革命ノ乱ノ御話等致居候。八日ニハ「ラリボアジール」病院ニ参リ胃病専門家「ドクトル ブッシアール」氏ニ面会致シ委シク院内ヲ見物仕候。同日午後七時頃よりポルト・サンマルタン ト申ス劇場ニ「サラ・ベルナル」ナル有名ナル役者ノ芝居ヲ見物仕候。甚感心仕候。下題ハTheodoraト申シ、トルコノ王宮ノ様子等ニテ候。

十月十一日早朝殿下及ビ前田侯婦巴、由テベルギー国ニ到ル用意ヲ致シ申候。此日皮膚病家ドクトル ブルニー氏ヲ訪へ、且ツレミー及ビランセロー氏ニ暇乞ニ行キ申候。夫レヨリ十五日迄ハ混雑ニテ済ミ、十六日午前八時巴里ヲ出立仕午後二時頃ベルギー国ブリッセル府ニ到着仕候。ホテルハ「ホテル・ド・ベルウィー」ト申ス美麗ナルホテルニ御坐候て、王宮ニ近ク公園ヲ後ロニ持チ候所ニ御坐候。当地ニテハ宮殿下前田侯等王及ビ女王ニ謁見相成、小生ハ例ノ如ク市中ヲ見物候後病院及ビ博物館ヲ視察仕候。此地ノ陸軍病院ハ新築ニテ甚善ク準備罷在、大ヒニ学問ニ相成申候。賀古⁽³⁾モ参リ視候由病院ニテ申居候。

ベルギーハ独乙公使之レヲ兼勤罷在候故西園寺氏⁽⁴⁾参リ居ラレ総テ周旋相成候。

十月十九日ハ御息所前田夫人公使ハ小生ト「ユンワン・ド・ジェット」ト申ス所ノ女学校ニ参ラレ候処、女王陛下ハ既ニ御待合セニテ生徒ハ路ノ左右ニ併列シ日本萬歳ヲ唱ヒ申候。女王ハ御息所ト校内ヲ御巡回被遊、小生ニモ謁ヲ給ハリ小生ハ医学士ニ御坐候由申上候所、予ハ天皇陛下及ビ此度ノ一行モ貴君ノ御世話ニ成ラレザルコトヲ望ムト被仰候。又生徒ヨリ女王陛下及ビ御息所ニ花一束ヲ呈セシニ女王ハ已レノ大ナル方ヲ御息所ニ与ヘ其小ナル者ヲ取リテ之レヲ前田夫人ニ給ハリタリ、其配意ノ周到ナル実ニ感心仕候。

十月廿日一同車ニ乗シワートルローノ古戦場ニ参

リ一日ヲ費シ帰り申候。

十月廿二日朝十時ブリッセルヲ出立仕、汽車ニテ「カレー」ニ至リ船ニテドーウルニ着シ、夫レヨリ竜動ニ汽車ニテ参リ申候。海上ハ甚安静ニテ此度ハ船酔一名モ無御坐候。

廿三日ハ公使館ヨリ日本ヨリ着ノ者ヲ持来リ、小生ハ小石川ヨリノ書状ト中外医事新報ヲ落掌仕候。本所ニテハ女兒誕生⁽⁵⁾相成候由、又々妹ヲ設ケ候事カト喜悦罷在候。先々御自愛相成候様奉祈候。飯田町⁽⁶⁾ニテモ皆々様御健全ノ由雀躍ノ至リ奉存候。

十月廿五日セント トーマス病院ニ到リ「ブリストー」氏及ビ「アンゲルワン」ヲ訪候へ共不在ニテ「ドクトル グリウェル氏」案内致呉候。何レ其内又々参リ申候積リニ御坐候。同夜「ヘーマルクト」ノ芝居ニ参リ申候。其後ハ博物館・蝨人形等ノ類ニ御伴仕、又時々公使館ニテ日本料理ノ御馳走有之候。

廿六日三條内大臣総理大臣ヲ兼ネ候事ノ電報到着仕候。日本ニテモ条約改正騒ギヤラ外務大臣負傷ヤラ有之候由多忙ノ事ニ奉存候。

British Medical Journal ノ ハート氏ハ三回尋ネ申候テ始メテ今日面会仕、犬ノ代金ノ事委細話シ申候処早速横浜バンクニ当テ差出候様申居候。同氏ハ日本品ヲ数多持居候老人ニ御坐候。犬モ小生見申候健康ニ御坐候。

竜動ニテハ又々「クイーンズコルレーヂ」及ビ「エガム」ト申処ニ新築致候女学校ニ御伴被仰付、殆ント女学校研究ノ様ニ御坐候。之レ御息所ヨリ皇后陛下ニ奉マツラル、書ノ下認ヲ常ニ小生ニ命ゼラル、故ニ御坐候。少シク閉口ノ至リニ御坐候へ共已ヲ得ス、然シ西洋女子ノ教育ヲ知ルニハ宜敷候。

竜動近傍ニテ見候場所ハ水晶宮、ブライトン及ビリッチモンド、ウインブル等ニ御坐候。

市中モ少シハ見申候へ共病院研究ハ未ダ充分ニ無御座候。昨日ハ ロアヤール コルレーヂ オフサルジェアン ニ至リ那翁第一世⁽⁷⁾ノ腸胃及ビ種々ノ面白キ品見申候。

我一行ハ来ル十日出立「ブリッセル」ヲ経テ独乙伯林ニ参リ候筈ニ御坐候間左様御承知被下度候。

過日天長節ニハ大学連則チ法科ノ植村、土方、工科ノ中嶋等ニ遇ヒ申候。頓首

十一月六日

三浦謹之助

三宅 秀様⁽⁸⁾

三浦有恒様

同 省軒様

(1) 竜動 英国首府ロンドン。

(2) 御息所(みやすどころ) 有栖川威仁親王妃 慰子。

(3) 賀古 賀古鶴所(かこつと)。明治14年東大医学部卒業。陸軍軍医。耳鼻咽喉科医。明治21年12月より23年10月山縣有朋の随員として渡欧。ベルリン大学等で学ぶ。森鷗外と同級生で親友。

(4) 西園寺氏 西園寺公望(さいおんじ きんもち)。明治・大正・昭和期の貴族政治家。明治20年6月より24年9月迄駐ドイツ・ベルギー公使。後に首相、公爵、最後の元老として明治・大正・昭和期3代の日本の政治を動かす。後年、三浦が主治医となる。

(5) 本所ニテハ女兒誕生 三宅秀の5女 八重誕生。明治25年4月三宅秀は本所より小石川 竹早町に転居する。

(6) 飯田町 飯田町に住む伯父三浦有恒の事。

(7) 那翁第一世 フランス ナポレオン1世。

(8) 「三宅秀様」の下に朱筆で「同氏(三浦有恒)より御返却を受く」とある。

第十一号信 1890.2.

十二月十四日御認メ御書状去ル一月卅一日羅馬⁽¹⁾ヨリ巴里ノ帰着ノ日ニ拝受仕候。然ルニ九月廿日ノ第二信ハ加藤氏其節忘却仕リ小生ノ手許ニ参リ不申候故、同ジク一月卅一日第三信ヲ落掌仕候後ニ拝読仕候。但シ巴里ヨリベルヂーニ出立仕候前既ニ到着罷在候者ナリ。其故ニ「プッシマン」氏医学教授歴史ノ注文モ相遅延シ誠ニ遺憾ニ奉存候。卅一日ニハ早速「ローレンツ」ニ申遣置候。新年ノ書状拝呈候後ハ尚ホ一月五日迄「フロレンツ」⁽²⁾ニ滞在致シ、或ハ陶器製造所ニ到リ、或ヒハ美術学校の陳列所ニ到リ「サン・ミニアート」

ニ登リテ市中ヲ眺望シ等致シ、六日午後四時「フロレンツ」ヲ発シ羅馬ニ向ヒ申候。

羅馬ニテハ Via nazionale ノ Hotel du Quirinal⁽³⁾ ニ投宿、翌日ハ「モレシヨット」氏ヲ尋問候へ共不在ニテ夫レヨリ大学ニ至リ候処、御存知ノ通り医学部ニ属スル方ハ市中ノ処々ニ散在致居候故只動物学及ビ比較解剖学教室ニ参リ申候。動物学教室ノ長ハ Antonio Carruccio ト申人ニテ lo Spalanzani ト申新誌ノ Redacteur⁽⁴⁾ ニ御坐候。此人ト仏語伊語ヲ交ヘテ半時間程談話、病院ノ事等ヲ聞キ共ニ校ヲ出テ帰り申候。翌日ハ「ワチカン」「サンペートル」寺「フォーラム」「コロッセウム」等ヲ見、其翌日は「パンテオン」ニ至リ先帝「ウィクトル・エマヌエル」ノ墓ニ謁シ「パラッツ・ボルゲーゼ」ニ参リ申候。其翌日モ油畫ノガレリーヲ見物家ニ帰り候処「モレシヨット」氏尋ネ来リ火曜日ニ自家ニ小生ヲ招クト申事ニテ約束仕候。又十二日ニハ「マルキアファハ」氏ノ試験所ニ到リ「マラリア」ノ Plasmodium ヲ顕微鏡下ニ見申候。今ニテハ小生モ此物ガ「マラリア」ヲ起スノ原因ナルコトハ殆ント疑ヒ不申候。午後パラチン山ニ登リ帝城ノ遺跡ヲ見、カラカラ浴場ヲ見、直チニ「サン・スピリート」病院ニ参リ其大概ヲ見申候。翌日ハカピートルニ登リ其博物館ヲ見申候。同夜モレシヨット氏ノ宅ニ招ガレ参リ候処、此人ノ妻ハ独乙ノ人ニテ一男一女有之皆独乙語ヲ話シ申候。同日招キ候ハ小生ト尚ホ一名ノ和蘭国ノ婦人ニテ、モ氏ハ永井久一郎氏⁽⁵⁾ノ話シ等致サレ候。昨年ハ独乙ノ「ヘッケル」氏参リ所著ノ書ヲ贈リ候由、モレシヨット氏ハ和蘭ノ人故「ドンデルス」ト親友ニテソノ伝ヲ書キ候由ニテ小生ニ贈ラレ holländische Abend⁽⁶⁾ ノ記念ト記サレ候。又娘ヲシテ歌ヲ唱ハシメ自ラ「ピアノ」ヲ弾シテ甚楽シキ様ニ見ヘ申候。后チ小生ニ写真ヲ贈リ一見如旧今回巡廻中ノ面白キタニテ御坐候。

一月十七日「ローマ」ヲ発シ「ナープル」⁽⁷⁾ニ参リ申候。此処ニテハ有名ナル水族館・博物館及ビ病院二箇ヲ見、廿二日ニ一同随伴「ボンベイ」ニ参リ二千年ノ遺跡ヲ見申候。又ナープルニテ全伊国ノ医事新聞ヲ求メ申候。「ナープル」ヨリ再ビ廿四日ニ羅馬ニ帰り写真ヲ取り(巴里ヨリ廉ニシ

テ美ナリ)廿七日「ローマ」ヲ発シ「ピーザア」ノ斜塔ヲ右ニ見ツ、伊国軍港「スペチア」ニ到着仕候。此処ニテハ海軍病院ヲ見、一月廿九日「トリノ」ニ向ケ出発仕候。此辺「トンネル」ノ多キニハ殆ント閉口ニテ少シモ汽車中ニテ読書スルコト能ハズ候。

「トリノ」ニハ一日ヨリモ少ナキ滞在故諸方ヲ見ルコト能ハズ、有名ナル病院一箇ノミヲ見申候。三十日午後二時トリノヲ発シ sleeping car ニテ巴里ニ向ケ出発仕候テ卅一日ニハ巴里ニ安着仕候。扱テ小生ハ「マルセーユ」迄参リ候哉未定ニ御坐候へ共何ニ致セ皆々様御出帆後ハ直チニ独乙ニ参リ候積リニ御坐候。

鑛一様⁽⁸⁾ノ為メニ the imperial postage stamp album 2 vol. ヲ巴里ノ英国書籍屋ニテ求メ申候。印紙ハ小生現今稀ナル者モ所持不仕候へ共、持居候丈ケハ差上候。

小石川三浦⁽⁹⁾ヨリ書状参リ居候間別ニ一封差出可申候。

先ハ要用迄如此ニ御坐候。頓首再拜

二月五日

謹之助

御父上様

- (1) 羅馬 イタリア国首府ローマ。
- (2) フロレンツ イタリア国フローレンス(フロレンツェ)。
- (3) Hotel du Quirinal 同所に現存するデラックス クラシックホテル。
- (4) Redacteur 編集者。
- (5) 永井久一郎 内務省衛生局御用掛、日本代表としてロンドンノ万国博覧会に臨む。
- (6) holländische Abend オランダノ夕べ。
- (7) ナープル イタリア国ナポリ。
- (8) 鑛一様 三宅鑛一。三宅秀ノ長男。三浦教ノ弟。明治34年東大医学部卒業。大正14年より昭和11年迄東大医学部精神科教授。
- (9) 小石川三浦 小石川に住む三浦省軒ノ事。

第十二号信(ベルリンより) 1890.2.21.

従伯林。

巴里来着以来ハ皆々様御出立ノ御用意ニ付小生モ

無寸暇罷在候処、弥々去ル十九日午後七時ノ汽車ニテ皆々様ハ「マルセーユ」ニ御出立被遊候ニ相極リ小生ハ巴里ニテ御暇乞仕候。同日ハ小生「ガル・ド・リオン」⁽¹⁾迄皆々様ヲ御見送り仕り、午後八時直チニ「ガル・ド・ノール」⁽²⁾ヨリ独乙ニ向ケ出立仕候テ昨夜八時過伯林ニ安着仕候。先ツ当分ノ内 bei Frau Drews, Müllers Haus, Friedrich Carls Ufer. ニ一室ヲ借り受ケ申候。之レハ昨年ノ末伯林ニ参リ候節見置候室ニテ過日巴里ヨリ二月十五日ニ取置キクレト申越候ナリ。此者ハ近日(三月末)ベルグマン氏ノクリニック辺ニ引移リ候由申居候故其家ヲ見候後小生モ共ニ引移ル可キヤ、或ヒハ他ニ参リ候ヤヲ取極メ申管ニ御坐候。此「ドレーウス」ト申者ハ五十年程ノ老婦ニ候テ既ニ久シク室ヲ人ニ借スコトヲ業トナシ候由、方今ノ住所ハ「シアリテー」ヲ望ミ得ル所ニテ新シキ家ニ御坐候。東ニ向ヘル一室ノ価二十四マーク、朝ノ「コーヒー」暖炉等ハ別ニ候。先ツ廉価ノ積リニ御坐候。書状ハ公使館当テニテ御送り被下度候。如何トナレバ未ダ此者ノ性質モ分ラズ且ツ近日移転候故ニ御坐候。

扱テ此回巡廻中ハ前田侯ヨリ一日老門〇八錢宛ノ手当ニテ三百七十日間随行候事故総テニテ三百九十九円六十錢ナリ。別ニ仕度料二百円総計五百九十九円六十錢ニ御坐候。其内ヨリ旅行中ニ遣ヒ候金子ヲ差引百六十一円八十八錢五厘丈ケ残り居リ候故是レヲ佛貨ニ直シ六百二十八フラン十サンチームヲ巴里ニテ受取申候。之レハ小遣金ニテ「ホテル」汽車等ノ払ヒハ皆前田侯ノ方ヨリ出居リ候故何程ニ相成候哉小生ニハ不分明ニ候。又出立ノ節ト其後ト御送り被下候金円ノ内ヨリ大凡四拾五ポンド程ヲ旅行中ニ費シ申候テ其残余ヲ巴里ニテ替ヒ二千マーク及ビ佛貨百フラン余ト相成申候。然ルニ其後前田侯ヨリノ手当余リ分ヲ受取候故其一分ヲ獨貨ニ替ヒ残余ヲ以テ巴里ヨリ伯林迄ノ旅行費ト致シ候。出立ノ当日宮様ヨリ五百フラン頂戴仕候テ小生ノ手元ニ大凡佛貨六百フラン余ト獨貨二千百八十マーク程ヲ残シ候故ニ佛貨ハ其仮置キ他日ノ用或ヒハ困セントキノ用ニ供シ、二千百八十マークヲ以テ后来學費ニ供シ候積リニ御坐候。然レトモ此内ヨリ一ニノ衣服ト事ニヨリ顯

微鏡一臺ヲ償ヒ候哉ト存居候。方今ハ学期ノ終リニ候故不都合ノ時ニ候ヘ共其ノ内何レヘカ参リ學業ニアリ付候積リニ御坐候。

先ハ伯林来着ト此回ノ結果トヲ御報道申上度如此ニ御坐候。頓首

二月廿一日

三浦謹之助

御父上様

(1) ガル・ド・リオン リオン駅。南仏リオン方面への列車ターミナル。

(2) ガル・ド・ノール 北駅。北方ドイツ方面への列車ターミナル。

第十三号信 1890.3.12.

前略御高免可被下候。然ハ小生伯林ニ来着以来ハ何モ異リ無く毎日伯林中ヲ奔走罷在候。夫レハ何故カト申スニ方今ハ最早休暇中ニ候故之レヲ利用セント存ジ本月一日ヨリ衛生学教室ノ「バクテリオロジー」ノ「クルス」⁽¹⁾ニ入り申候。同「クルス」ニ入り候者ハ小生ノ外宇野⁽²⁾、澤辺⁽³⁾ノ両氏ニ御坐候。他ノ日本人ハ旧カブ故既ニ取り候由、此ノ「クルス」ヲ取ル為メニハ英魯埃等ヨリモ参リ居リ申候。多クハ頭ガハゲ或ヒハ髯毛面ニ満ツル様ノ先生ニ候。然シ若キ者モ有之候。毎日朝九時ヨリ午後四時又ハ五時頃迄顯微鏡ヤヲ培養基ヤヲ取扱ヒ居リ申候。北里⁽⁴⁾ハ非常ニ我々日本人ノ為メニ周旋致シ呉候。同人此頃ハ「コノコッケン」⁽⁵⁾ヲ研究致シ居リ候由ナリ。

小生ハ朝市中ノ汽車ニテ衛生教室ニ参リ、夫レヨリ午後四時ヨリ Bel.medizinische Gersellschaft⁽⁶⁾ノ書籍館ニ参リ、七時ニ夕飯ヲ食シ寓居ニ歸リ申候。為メニ方今ハ寸暇無之程ニ御坐候。

又当府大学ノ人ニテ小生ニ甚ダ親切ニ致シ呉レ候人々ハ「ゲルハルド」氏⁽⁷⁾及ビ其助手ト「モアビット」⁽⁸⁾ノグットマン氏ニ御坐候。「ゲルハルド氏」ノ臨床講義モニ三度聞キ申候。方今ハ休業ニ御坐候。氏ハ屢々小生ヲ招キ呉レ申候。過日舞踏ニ招ガレ候ニハ閉口仕候テ断リ申候。御存知ノ通り舞踏会ニ招ガレ跳ラザルトキハ甚ダ間ノ抜ケ候者故ニ断リ申候。故ニ小生モ日曜日位ヒニ体操ノ代リニ舞踏ヲ学バンカト考居申候。「グットマ

ン氏」ハ「モアビット」ノ「ラボラトリウム」ニテ仕事致スコトハ何時ニテモ宜敷ト申居候。然シ先生自分ガ大家ニ御坐ナク候故困リ申候。「ウイルヒョー氏」⁽⁹⁾ノ処モ余リ好マシカラズ「ゲルハルド」氏ノ処ニテハ自ラ患者ヲ取扱フコト能ハズ候故寧ロ一二学期ノ後ハ去テ「ハイデルベルヒ」又ハ「ウィルツブルグ」ニ行カンカ等ノ考ヘ御坐候。「ウェストフェール」氏ハ死シ、神経病家ハ方今「メンデル」氏ノミニ御坐候。「ウェストフェール」氏ノ代理ハ未ダ分リ不申候。

過日申上候金円ノ大部ハ村岡氏ノ説ニヨリ Deutsche Bank ニ預ケ入用ノ節引出シ候様ニ致シ申候。買求候重ナル物品ハ顕微鏡一臺、書籍二三冊バクテリオロジー用ノ品数品等ニ御坐候。

先ハ大略申上度如此ニ御坐候。頓首

三月十二日

三浦謹之助

三宅 秀様

- (1) クルス クルズス (小規模の) 講習。
- (2) 宇野 宇野朗 (うのほがら)。明治9年東大医学部(東京医学校)卒業。19年より30年迄東大医学部皮膚科教授。
- (3) 澤辺 澤辺保雄。外科医。明治18年東大医学部卒業。22年第3高等中学校(岡山大学医学部)より公費にて初めてドイツ留学。
- (4) 北里 北里柴三郎。明治16年東大医学部卒業。18年11月より25年5月迄ドイツ留学。ベルリン大学コッホ教授の研究室にて22年破傷風菌、23年ジフテリア菌の血清療法を開発。
- (5) コノコッケン ゴノコッケン。淋菌。
- (6) Bel.medizinische Gersellschaft ベルリン医学協会。
- (7) ゲルハルド Gerhard。ベルリン大学の内科教授。
- (8) モアビット ベルリンの地名。
- (9) ウイルヒョウ ルドルフ ウイルヒョウ Rudolf Virchow。ベルリン大学の病理学教授。病理学者。政治家。

第十六号 1980.5.

去ル四月十一日第十五号信差出候後17日ニハ大学ニ入学仕候。小生ハ大学ニ「インアトリククリーレン」致サズ、「ホスピタント」⁽¹⁾トシテ臨床講義ニ参リ候積リニテ既ニ教授ノ許可ヲ得大学ニ参リホノラール⁽²⁾ヲ私ヒ申度存ジ候処、大学ノ会計ニテハ学長ノ許シヲ要シ候ト申シ受取不申候故方今ノ学長バルデレーベン氏ニ其由申入候処、小生ニハ役名ノ肩書無之候故「ホスピタント」タルコトヲ許サズ已ムヲ得ズ入学致候。但シ過日宮様ノ一行ト伯林ニ滞在罷在候時、バルデレーベン氏ヲ訪ハザリシハ小生ノ失策ニ御坐候。然レトモ「ゲルハルド」「メンデル」等ノ臨床講義ニハ「ホスピタント」ト同ジキ取扱ヲ受け居リ申候。只十八マークヲ冗費セシハ残念ニ候ノミ。其代リニハ書籍館ニ入り芝居ニ参リ或ヒハ病氣ノ節ハ都合宜敷候。但シ芝居ト病氣ノ二件ハ未ダ実行不致候。

今学期ニ於テ稽古致シ候課目ハ「ゲルハルド」内科臨床講義。「メンデル」神経病外来臨床講義、同シク精神病学電気用法及ビ按摩法、「オッペンハイム」電気療法及ビ診断学、脊髓病講義等ニシテ其他ノ時間ヲ以テ「ハンス ウイルヒョー」氏⁽³⁾ノ「ラボラトリウム」ニ於テノ「アルバイト」ニ充テ申候。此所ニテハ脳及ビ脊髓等ノ肉眼的及ビ顕微鏡的検査法ヲ学ビ居リ申候。其余暇ニハ藁及ビ兎ノ解剖ヲ致シ居申候。之レハ後來生理的及ビ薬物学的ノ試験ヲ行ヒ候下地ニ候。病理解剖ノ「ウイルヒョー」氏ノ講義ハ「ゲルハルド」氏ノ講義ト差合ニ相成候故取り不申候。又先生ノ「ラボラトリウム」ニ於テ仕事致シ候ニハ「ミクロトーム」⁽⁴⁾ヲ要シ、且ツウイルヒョー氏ノ来ルコト稀レニ候故神経病ノ病理解剖ハ他ノ大学ニテ学ビ候積リニ候。先ツ方今ノ処ニテハ神経系統ノ尋常解剖ト試験動物ノ解剖トヲ研究シ内科ト神経病ノ臨床講義ヲ聞キ電気ノ用法ヲ知り申候事ニ止マリ候。又「ゲルハルド」氏ノ処ニテハ鉛中毒患者ノ皮膚ニ於テ鉛ヲ電気ノKataphorische Wirkungニ依テ見出シ候試験ヲ致シ居申候。成績ノ如何ハ未ダ不分明ニ御坐候。

今ヨリ八月迄ハ如此ニ致シ居リ、八月ノ「インテルナチオナーレ コンGRESS」⁽⁵⁾ヲ見、夫レヨリ

他ノ大学ニ至リ神経系統ノ生理神経系統ノ薬剤学，消化器病眼科ノ試験法等ヲ研究シ，夫ヨリ巴里ニ参リ候積リニ候。「コングレス」ニハ何か持出シ度存ジ候へ共日尚ホ浅ク方今ノ処ニテハ別ニ同コングレスニ持出候程ノ物ハ出来候見込無御坐候。

「ハンス ウィルヒョー」氏ノ処ニテ神経系統ノ組織学研究ニハ嘗テ日本ヨリ持来リ申候病的ノプレパレートモ研究罷在候。同氏ヨリノ依頼ニ御坐候ガ「ライプチヒ」府ノ「フレクシヒ」氏ガ嘗テ日本産ノ Rothholz ヲ以テ脊髄ヲ着色シ美麗ナル成績ヲ得候へ共其後此品ヲ不得，如何ニシテ之レヲ得ルコトハ不能ヤト申シ被居候。小生ノ推考ニテハ蘇木⁽⁶⁾ナラント存候へ共委敷知ルコト不能候。若シ右蘇木或ハ茜ノ類ヲ Probe⁽⁷⁾トシテ郵便ニ差出候事出来，別ニ許多ノ費用ヲ要セズ候ハ、御送り被遊被下度候。

三月二十二日御出シノ御書状ハ今日到着仕候。但シ該十六号信ノ第二枚目迄ハ昨夜灯下ニ於テ認メ今朝早々ノ臨床講義ニ参リ只今少シク調へ物有之帰宅候処ニ候，折善ク郵便到着仕候間昨夜ノ続キヲ認メ申候ナリ。日本ノ政党ノ激烈ナルハ驚入り申候。橋梁ヲ異ニスル等ニ至リテハ少シク抱腹ニ堪ヘザルガ如シ。

軍医岡田ニハ既ニ面会仕候。其他ニハ未ダ面会不仕候。廃娼論ハ近日盛ニ相成候様子實ニ見識ノ狭キ説ト奉存候。当伯林等ニテハ既ニ一區ヲ画シテ鑑札ヲ有スル娼婦ヲ集ムルノ計畫ヲ為サント欲スル人々有之候。巴里ニテモ同様ノ説ヲ有スル人医学社会ニハ数多有之候由昨年レミー氏申居候。過般来ノ「インフルインツァ」⁽⁸⁾ハ種々ノ病ヲ残シ候ハ多分新聞ニテ御承知相成候事ト奉存候。臨床講義ニ出サレ候患者ニハ同症ニ罹リ候者素ヨリ多ク病症日誌ノ大部分中ニハ「インフルインツァ」ニ罹レリト記シアリ候位ニ御坐候。

学資金ノ有高ハ去ル二月末ノ書状ニ委敷申上候へ共尚ホ其後ノ模様ヲ申上候。三月中ニハ「コッホ」⁽⁹⁾氏ノ「バクテリオロギー」ヲ取り候故比較的多クノ費用ヲ要シ候。則チ顕微鏡三百六十マーク。之レハ何レニ参リ候テモ必要ナルノミナラズ日本ニ持帰り候モ損ナク候故求メ申候。七十マー

ク場所代，三十マーク器械等 四月ハ講義ノ代入学費場所代等ニテ則チ一学期中ノ仕度ニ入費ヲ要シ候。則チ都合百五十マーク余。但シ顕微鏡用器具書籍等ハ別ニ御坐候。又獣医「フレーネル」氏ニ客人トシテ獣ノ臨床講義ヲ聞キ度事頼ミ入レ候故，後ニ贈物ヲ致シ可申候。二月末ヨリ今日迄費シ候金額ハ大凡千マークニ近ク御坐候。然レトモ之レヨリ以後ノ 月ハ如此費用ヲ要シ不申候。如何トナレバ以上ノ金額中ニハ既ニ以後ノ月ノ費用ヲ含有シ居リ候故ナリ。方今 Deutsche Bank ニ預ケ置候残金ハ千マークニテ四五ヶ月ヲ支へ得可申候へ共為替御送り被下候事ハ望マシク候。伯林ハ物価高ク且ツ知己多ク大ヒニ不経済ニ存ジ候故伯林ニ於テ致ス可キ仕事ノ終り次第「ウエルツブルク」ニ転ジ候心組ニ御坐候。同地ニハ「ロエベ」氏内科ヲ受持チ居リ病理解剖ニハ「リンドフラエシ」，生理ニハ「フィック」等居リ候。又「ウエルツブルグ」ヨリ「ハイデルベルグ」ノ「エルプ」ヲ訪ヒ，或ヒハ「ストラスブルグ」ヲ経テ巴里ニ入り候積リニ御坐候。

小生義只今マデ未ダ Familie ニ入り不申候。何分時間ノ都合モ宜シカラズ且ツ一室ヲ借り候ヨリ多分ノ費用ヲ要シ候故ナリ。書籍ニテ漸次不要ニ相成リ旅行ノ妨ケヲ為シ候者ハ漸次郵送仕候心組ニ御坐候間御取置被遊被下度候。

扱 今日ハ日本便ノ日ト相見へ只今又々小石川ヨリ送り呉レ候時事新報到着仕候。今日ハ之レヨリ顕微鏡ノ検査トメンデル氏ノ臨床講義ニ参リ申候。頓首

五月六日

三浦謹之助

三宅秀様

- (1) ホスピタント 聴講生 (guest student)
- (2) ホノラール Honorar 謝礼。
- (3) ハンス ウィルヒョウ Hans Virchow. Friedrich-Wilhelms 大学 (ベルリン) 解剖学教授。Rudolf Virchow の子息。
- (4) ミクロトーム 物体を顕微鏡で見ると薄く切る装置。
- (5) インテルナチオナーレ コングレス 万国医会。

- (6) 蘇木 蘇芳(すおう). 豆科の植物から取れる赤色色素.
- (7) probe 試供品.
- (8) インフルエンツァ インフルエンザの福島訛.
- (9) コッホ Robert Koch. 細菌学者. 炭疽菌・結核菌・コレラ菌の発見者. ベルリン大学教授. 北里柴三郎の恩師. ノーベル賞受賞者.

第十七号 1890.5.22.

四月五日東京発書留郵便第五信并ニ御封入相成候為替 No. 3180 £ 54.10.1 は五月廿日儘ニ拜受仕候. 又同封中ニ御坐候宇野氏当一封ハ同氏ニ相渡申候. 御誂相成候 Meyer's Handlexicon⁽¹⁾ハ「カールスストラーセ」⁽²⁾ナル「フリードレンデル」ニ於テ買求メ, 図書館用書籍ト共ニ送り候様致シ申候故御受取被遊被下度候. 同レクシコン⁽³⁾ハ別封ト為シ上ニ Herrn Prof. Dr. H. Miyake, abgesendet von Dr. K. Miura ト記シ有之候筈ニ候. 村田ノ一條ハ委曲宇野氏ニ話シ申候. 至極結構ニ存候由被申居候.

アルチレリーニハ少シモ寄付不申候. 只過日村岡氏ヨリ被招候節同家ニ参リ候へ共誰ガ来リシヤ老婆存ジ不申候.

本日加藤恒氏当ノ書状本郷ニ差出, カプリウイ氏写真ヲ封入致候. 前田侯ハ兼テ写真ヲ被好候故差上申候也.

小生ノ不充分ナル英文ヲ以テ教女ニ一書ヲ遣シ候. 御一覽ノ上誤謬ノ点ハ御教示被遊被下度候. 只英文ノ稽古ニ文通候事至極宜敷ト存ジ遣候也. 頓首

五月廿二日

三浦謹之助

三宅秀様

- (1) Meyer's Handlexicon マイヤー氏携帯辞書.
- (2) カールスストラーセ Karlsstraße カールス通り.
- (3) 同レクシコン マイヤー氏携帯辞書.

第十八号信 (1890.6.18)

四月廿四日御発ノ第六号信及ビ御封入被遊被下候

四ヶ月渡り為替券 No. J/83 £ 56, 13 / 10 は正ニ拜受仕候. 即日同券ヲ倫敦ニ送り候処数日前再ビ送り返シ, 且ツ来ル十月三日ニ同金額相渡シ只候旨申来候. 又同シク御封入被遊候「セクンダ」ハ過日既ニ「プリマ」ニテ金額ヲ受取独乙銀行ニ預ケ置候故其マ、貯蔵致置候.

○其後小生ノ学業ニハ何モ変リ候事モ無御坐候. 毎日岡氏トハ「クリニック」ニテ出遇ヒ, 宇野氏トハ解剖局ニテ出遇居申候. 又伊国ヨリ数多留學生参リ居申候. 魯国ノ人モ随分御坐候.

今後ノ方向ニ付御教諭相顧度候故, 方今小生ノ愚考ヲ左ニ申上候. 来ル八月上旬ニハ萬国醫會御坐候故コレニテ人物ヲ判決シ次学期ニ至ル可キ場所ヲ定候事必用ニ候へ共, 先ツ Würzburg ニ至リ候事ハ宜敷ト奉存候. 如何トナレバ彼所ニハ随分有名ナル人タモ居リ近傍ニ数多ノ大学散在致居, 又在伯林大家ノ出所ニ御坐候故ニ御坐候. 然レトモ小生ノ着目致候人ハ「ロイベ」氏ニ候テ「ゲルハルド」氏モ同氏ノコトハ大ヒニ賛称致居候. 今学期ハ重ニ神経病ニ尽力仕候故次学期ハ消化器病ヲ専修致候積リニ候. 而シテ又其次ニハ神経病ヲ専修候様ニ相成候. 地方ノ大学ニテハ「マテリアール」⁽¹⁾伯林ノ如ク多カラズ候へ共終リニ巴里ニ参リ候へハ再ビ充分ノ「マテリアール」ヲ得候事ト奉存候. 然シ当夏休暇ノ伯林ノ「クルス」ニ於テ小生ノ専門ヨリ遠キ学科及ビ他ノ大学ニテ学ビ難キ学科等ヲ修メ申度存居候. 又「ウエルツブルグ」ノ様子ハ委細聞キ候積リニ御坐候. 先ツ学資ヲ冗費セズ短キ時ニ於テ多クヲ学ビ候事, 殊ニ学術研究ノ方法, 実験上ノ考へ方等ヲ学ビ候事ヲ勤メ居申候.

過日ノ御書面ニ今方女子ノ教育ハ至難ナルコトノ御説有之候ガ己レ自ラヲ教育致シ候サイ, 中々心配ニ候故方今日本ノ状態ニ於テハ女子ノ教育ハ甚御迷惑ノ至リト奉遥察候. 過日御送付被遊被下候高等女学校規則ハ過日後藤氏ヨリ受取申候へ共, 同校廃止ニ相成候ては後來教女ノ学び候事は以前トハ素ヨリ違ヒ候事ニ候.

○田原君モ伯林ニ着致シ候由ナレトモ未ダ面会不仕候. 石黒宇宙治君⁽²⁾モ近日中当地ニ参リ候由承知仕候. 其他伯林ニハ別ニ変リ候事モ無御坐候.

頓首再拜

六月十八日 謹之助 拜
御父上様

尚々 小石川へは過日新聞等ノ件ニ付書状差出
置申候。

- (1) マテリアール 研究資料。
(2) 石黒宇宙治 明治12年東大医学部卒業。
23年イギリス セント トーマス病院へ留
学。のち海軍軍医総監。海軍軍医少将。

第十九号信 1890.7.25

六月六日御認メ第七号信七月廿三日着仕候テ、
四ヶ月渡リ為替ノセクンダ及ビ鑛一君書状正ニ落
掌仕候。「インフルエンサァ」ハ遂ニ皇国ニ波及
仕候テ、力士迄モ倒シ候由、小生ハ昨年同病潜伏
期ノ短キヲ以テ日本迄ハ波及不致ラント存居候
処、此度ノ流行ハ予想外ニ出申候。

○病理総論ハ近日続々発兌相成候由ナレトモ新聞
上ヲ以テ推察仕り候ニ、保利氏及ビ済生学舎ノ二
書ハ共ニ大同小異ナラント存候。両ナガラ「ベル
ツ」氏ノ「メモランド」、「コンハイム」氏ノ病理
総論等ヲ用ヒ候様ニ御坐候。又保利氏ノ書ニハ図
ヲ挿ミ候事至極宜敷存申候。尚ホ新趣向ヲ加ヘ候
事ニ付熟考可申候。

○若シ萬国医会ニテ「ハート」氏ニ面会仕り候へ
は金円送付の件ニ付問ヒ可申候。

○本年二月前田侯ヨリ yäger'sche Normalhemuden⁽¹⁾
ヲ十月迄ニ送り呉トノ御依頼御坐候故、御注文ノ
数総テ十五組送り申候故右ノ代価二百二十七マ
ーク五十ペンニヒハ前田家ヨリ御受取被遊被下
度候。尚此事ニ付テハ加藤氏へ書状及ビ受取書送
付仕候間左様御思召被遊被下度候。

○近日ハ萬国醫會ノ用意ニテ伯林の医界ハ頗ル多
忙ノ様ニ御坐候。既ニ米国等ヨリハ二三ノ医師来
着仕候テ、小生等ノ仕事場ヲ数日前ニ来觀仕候。

○在伯林ノ医学士中ニハ別ニ變動無御坐候へ共公
使館ノ藤田、留学中ノ都築ハ共ニ帰国仕候。加藤
時次郎⁽²⁾モ近日帰国ノ由、又田原氏ハ Freiburg ニ
出立致シ申候。北里及ビ岡ノ両氏ハ来年帰国ノ由
に御坐候。宇野、緒方⁽³⁾ノ二氏ハ夏休暇中旅行仕

り候由。其後ノ行先ハ未ダ分リ不申候。然シ乍ラ
独乙南方ノ大学ニ到り候様子ニ御坐候。佐藤⁽⁴⁾及
ビ佐々木⁽⁵⁾氏ニハ御無沙汰罷在候ガ乍恐宜敷奉
願上候。

小生宛ノ御書状ハ此次回ヨリ公使館へ御廻シ被遊
被下度候。如何トナレバ八月末ニハ既ニ Würzburg
ニ至り候哉モ分リ不申候故ナリ。同地ニ至り候へ
は直チニ居所申上ベク候。先ハ右大略申上度如此
ニ御坐候。頓首

七月廿五日 謹之助 拜
御父上様

尚 御祖母上様御始メ皆々様へも宜敷奉願上
候。

- (1) yäger'sche Normalhemuden イエーガーの
ノルマル(冬)用シャツ。
(2) 加藤時次郎 医師。社会運動家。明治16
年医術開業試験合格。私費にて21年7月よ
り23年10月迄ドイツ留学。この留学時社会
主義運動に関心を示す。
(3) 緒方 緒方取二郎。緒方洪庵の6男。明治
15年東大医学部卒業。22年より25年迄ベル
リン、ウィーン留学。眼科を学ぶ。
(4) 佐藤進 順天堂堂主。三宅秀の妻 藤は佐
藤進の妻 静子の妹。
(5) 佐々木東洋 杏運堂堂主。三宅秀の義弟。
妻 峯子は三宅秀の妹。

第二十号信 1890.10.1.

伯林ノ萬国医会も草々ニ相済候処、委細ハ新聞上
及ビ小生より差上候日報とプログラムニテ御承知
可被遊とは存候へ共、紙面上ニテ一寸申上候は又
別段ニ候故其概略を左ニ申上候。先ヅ第一日ニは
Circus Renz ニは総会を開き会長、書記、文部大
臣等の演説より、終リニ Lister⁽¹⁾ und Koch 二氏の
演説有之候。殊ニコッホ氏の述候事は後來大ヒニ
豊ミを属す可き事ニ御坐候。則チ氏ハ
Murschweinchen⁽²⁾ニ移植せる結核を治するの一事
ニ御坐候。其方法は結核の発生を一種の物を注入
して中止せしむるニあり。然れども氏は己の試験
未だ不充分なりとして其注入す可き物質を申ず、

尚ホ人間ニ試験を施せし後ニ於て他日之を世ニ公ニせんと公言せり。故ニ小生は其世ニ公ニする時期の近ニあれば尚伯林ニ止まり結核の治療法を研究せんと存じ候へ共、氏の之れを充分研究して世ニ公ニするは二三年の後なる可しとの事ニ御坐候故先づ之は思止ミ申候。北里等も尚一年の留学を願出んなど申居候へ共如何致し候哉、其後ハ未面談致さず候。何ニ致せ一大発明ニ御坐候。

第一日の午後総会の後は皆々己の専門ニ至り十八のSektionenニ相分れ申候て各々其姓名を各区の帳簿ニ記入仕候。(場所ハLandesaustellungspark)⁽³⁾夜分ニ至り皆パルクニ集り候。又パルク中ニは医療器械標本等ヲ陳列致候所ニケ所有之候て千〇九十七名ノ出品を陳列仕候。其プレパラート中ニは中々奇珍なる者を見受候。

第二日目(八月五日)よりは各科の会議始り候へ共、演説者の数非常ニ多くして到底四五日間ニは之を終り候事難く御坐候故、重ニ外国より遠路を経て参り候人々ニ演説せしめ候。小生は殆ど全く内科部のミニて時を費し申候。只Demonstrationの有り候時のミ他の部へも参り申候。又内科にて蜜尿病⁽⁴⁾の議論の時、日本ニ於る同病治療上の経験を短く陳述致し置申候。

第二及ビ第三の総会ニ於ては別ニ新発明の演説も無御坐候。伯林府にて会員をRathaus⁽⁵⁾ニ招き候時は甚盛会にて御坐候。又Kurollの会も甚多人数にて御坐候。

第十一万国医会は伊国羅馬ニ開候事ニ定り申候。之れは三年の後と申候事故同会ニは臨るや如何は先分り不申候。今回の万国医会ニ於ては各國より委員を出し候へ共、日本政府よりは委員無之候故ウイルヒョウ氏の好意ニテ岡玄卿氏は侍医の名目を帯居候為め仮りに之を委員と見候候事ニ極り、同氏は総テ此度の事務を取申候。又美術工業館の一部ニは古代の医療器械、野蛮人民の祈禱具等を陳列致し申候。

此度の会員ニは伯林府及会より左の書類を分ち申候。“Öffentl. Gesundheits-u. Krankenpflege der Stadt Berlin⁽⁶⁾” “Deutsches Gesundheitswesen⁽⁷⁾” “Das ärztliche Vereinswesen⁽⁸⁾” “Deutsche Curorte” 以上四冊ニ御坐候ガ御覧被遊度候ハ、郵送仕候間次信

ニ御申越被遊被下度候。

○次学期ニ於て稽古致候場所を前信にて殆どウェルツブルクニ相定候様申上候へ共只今にては少しく意見を変じ、Heidelberg or Freiburgニ参らんか抔愚考罷在候へ共未決定不仕候。只今は既ニ夏休暇ニ相成候へ共神経系の顕微鏡プレパラート未ダ全く終り不申候故尚ホ毎日解剖局ニ参り居申候。又本学期中鉛中毒患者ニ施せし試験の結果を記し、ゲルハルト氏の助手ニ一覽を頼ミ置候へ共暫時旅行致候故彼此形の付次第今後の方向を定可申候。先は右大略申上度如此ニ御坐候。頓首再拜

八月十五日

謹之助 拜

御父上様

尚々佐藤、佐々木氏等ニ御無沙汰致し居候間宜敷奉願上候。

(1) Lister氏 Joseph Lister イギリスの医師。男爵 フェノール使用の無菌外科手術の開拓者。

(2) Murschweinchen モルモット。

(3) Landesaustellungs Park 国立展示場。

(4) 蜜尿病 糖尿病。

(5) Rathaus 市役所。

(6) Öffentl. Gesundheits-u. Krankenpflege der Stadt Berlin ベルリンに於ける公衆衛生及び患者看護。

(7) Deutsches Gesundheitswesen ドイツ保健衛生制度。

(8) Das ärztliche Vereinswesen ドイツ医師会活動。

第廿二号信 1890.10.1

八月十四日御認め第九号信九月廿九日着拜見仕候。然は小生儀本月末ニは既ニ他大学ニ転じ候心組の処、ゲルハルト氏教室ニ同助手ノールデン氏の蓄置候胃癌ニ因スル多発生神経炎ノプレパラート御坐候故ノールデン氏と共に之レヲ検シ大ヒニ面白キ成績御坐候為メ伯林滞在ヲ本月中旬⁽¹⁾迄延シ申候。

右ノ「アルバイト」ヲ終り次第先づ次学期ハ「マールブルグ」ニ至り申候心組ニ御坐候。

Marburg 等只今迄日本人ノ余リ至ラザル処ニ参リ候ハ奇妙ニ御考被遊候哉モ難計候へ共、同地ニ居リ候人々ニ尋ネ候ニ「インスチット」⁽²⁾ハ随分宜敷候由、且今回ハ伯林ヨリ Uschoff, Küster, Barth 等ノ諸氏同地ノ教授ト相成被参候。然シ小生ノ目的ト致シ候処ハ此等ノ諸氏ノ為メニハ無御坐候テ、重モニ Külz⁽³⁾, Rubner, Marchand⁽⁴⁾ノ三氏ニ御坐候。則チ次学期ハ重モニ生理化学ト病理解剖ヲ専攻シ傍ラ Rumpf 氏ノ神経病学ヲモ修メ候積リニ候。Marburg ノ内科教授ハ Mannkoff 氏ニ御坐候故別ニ宜敷ハ無御坐候へ共、次学期中ニ於テ化学及ビ病理ノ「アルバイト」ガ小生ノ主眼ニ御坐候。随テ彼ノ病理総論ノ調べモ出来候事ト奉存候。Freiburg ヲヤマ候ハ同地ニ余リ多ク外国人ノ参リ居候故ニ御坐候。又地方ニ参リ候第二ノ目的ハ Privatdocent⁽⁵⁾タルヲ得ルヤ否ヤノ問ニ御坐候。素ヨリ「ドツェント」ニ相成候ニハ幾多ノ「アルバイト」ヲ致シ候事必用ニ御坐候へ共地方ニよりテハ二三ノ「アルバイト」ニテ「ドツェント」⁽⁶⁾タルコトヲ得ル処モ御坐候。外国人ガ独乙ニ於テ「ドツェント」と相成候事ハ独乙人ヨリモ難ク御坐候ハ勿論ニ候へ共、既ニ例モ御坐候故成リ得ルト如何ハ知ラザレトモ試ミ候ハ無益ニ無御坐候と奉存候。伯林ノ「ドツェント」ハ一二年独乙ニ止リ候外国人ニハ中々六ヶ敷候。

○飯田町伯父⁽⁷⁾事死去候由誠ニ残念ニ奉存候。然シ乍ラ小生出発ノ節ヨリ此事アラントハ小生モ既ニ期シ居候。飯田町へは別ニ悔ミ状差出可申候。

○愚母⁽⁸⁾写真一葉御送り被下難有奉存候。“一日モ早ク帰朝”ハ小生ニ向ヒ候テハ決シテ発言不致候へ共、皆様ニハ毎度申上候母ノ習慣ニ相成候故御氣ニ止メ不被遊被下度候。既ニ小生ノ出発前ニモ忍ブト云事ノ必用ヲ申置候へ共兎角待遠シキ者ト相見候。

○国会開設、コレラ流行等ニテ日本ハ甚繁多ニ御坐候ベシト奉遥察候。先ヅ日本モ充分ニ醜酵致サレバ透明静澄ニハ到リ不申事ト奉存候。頓首

十月一日 謹之助 拜
御父上様

(1) 本月中旬 1890年10月中旬。

(2) インスチット Institut. 研究室。

(3) Külz 氏 マールブルグ大学生化学教授。

(4) Marchand 氏 マールブルグ大学病理学教授。

(5) Privatdocent 定員外講師。

(6) ドツェント 講師。

(7) 飯田町伯父 伯父三浦有恒。

(8) 愚母 実母 三浦里子(佐登子)。

第廿三号信 1890.10.24. (マールブルクより)

八月卅日御認ノ第十号信及ビ在中四ヶ月渡リ為替 T/54 五十八ポンドニ志六ペンス並ニアルフレッドローレンツ当御書状正ニ拜受仕候。即日書肆ニ向ケ右御書状差出、為替券ハ竜動正金銀行ニ送り申候。扱 マールブルグニ参リ候以来ハ別ニ珍事モ無御坐、各教室モ二三日ハ掃除ノ為メニ開キ不申、只眼科教室ニ至リ患者ヲ見候ハ助手ニ助ケ等致シ居申候。小生ノ当地ニ於テ修メ候学科ハ生理化学ト病理解剖、神経系病等ニテ御坐候ガ、冬期ハ短日ニテ一箇ノ仕事ニ差掛リ候へば忽チ一日ヲ過シ候事故、先ツ生理化学ノ教室ニ入り申候。而シテ其他ハ之レヲ終リ次第取掛リ申度積リニ御坐候。只病理総論ノ講義ハ或ヒハ之レヲ聞カント存居候。教授ハ皆々甚親切ニ御坐候。生理ノ教授 Külz 氏ハ一箇ノ Diabetes 患者ノ私立病院ヲ持居候テ此病ニハ悉シキ様子ニ御坐候。又小生ガ化学上ノテーマヲ望ミ候処、貴君ノカヲ一応試シ度ト申シ中々テーマヲ与へ不申候。ホッペザイレル氏ノ所ヨリ出ル如キ麓末ノ仕事ハ此教室ヨリハ出シ度ナシ等申シ居候。何レニ三日ノ内仕事ニ掛リ候積リニ御坐候。先ツ生理ニテ仕事ヲ為シ後病理ニ参リ、夫レヨリ時間御坐候へば尚ホ Rubner 氏ノ許ニテ Stoffwechsel⁽¹⁾ノ事ニ付働キ度ト存居候。当地ニテ此等ノ論理学上ノ必用ナル者ヲ修メ、後当地ヨリ一時間計リノ Gießen ナル Riegel 氏ノクリニックニ入ランカ、或ヒハ Bonn ニ至リ Binz 氏ニ就キ薬物学ヲ修メ夫レヨリ処々ノ臨床講義ヲ訪へ専ラ実地医学ヲ講究センカ等考居候。何ニ致セ内科学ノ基礎タル学科ヲ修メ候以上ニ非ザレバ academische Laufbahn⁽²⁾ヲ取ル者ニハ臨床講義ノミ聞候テハ後來益ナク存候故留学ノ初期ハ之レヲ Hilfswissenschaften⁽³⁾ニ用ヒ候積リニ御坐候。

当地ハ閑静ニテ至極宜敷候へ共道路ハ甚悪敷夜間ノ点灯等モ不充分ニテ其他馬車等ハ一箇モナク市中ハ坂路多ク不便利ノ地ニ御坐候。日本人ニテ当地ニ居リ候者ハ小生一人ニ御坐候故殆ント肅然ナル位ニ候へ共今ニLaboratoriumニ入り候へは終日其内ニ居リ、家ニ歸レバ書籍ノ友トスル者有之候事故サホドニハ有ル間敷ト奉存候。只当地ニテ伯林ニ比シテ宜敷存候ハ牛乳パン及ビ牛酪⁽⁴⁾ニ御坐候。小生ノ只今部屋ヲ借り居候家ノ老婆 Frau von Baumbachハ元トGeneralノ妻ニテ御坐候由ニテ市中ノ人ハ善ク知り居申候故慥ナル者ト存候。暮シ方モ宜敷致シ居て部屋ヲ貸スノ必用ヲ持タザル者ノ様ニ候。Frau vonニテ思出シ候ガ過日伯林出立前アルチレリーノ老婆病氣ノ為メ同家ニ住スル日本氏ノ乞ニヨリ同婆ヲ診察致候故、若シ三浦ガ同家ニ至リシコト御聞及被遊候ハ、其事ニ御坐候間必ズ御心配不被遊様奉願上候。同婆ハHerpes zoster⁽⁵⁾ニテ痛居申候。

在伯林ノ学士中宇野朗氏ハ先ツ伯林ニ止リ候。岡玄卿氏ハ来年早々婦朝ノ由、北里氏ハ尚ホ一ヶ年留学延期ノ由ニ候。緒方収二郎モ来年半カ又ハ末ニハ婦朝ノ由ニ候。後藤⁽⁶⁾及ビ岡田ノ二名ハ衛生学ヲ修居申候。別課卒業生金杉⁽⁷⁾モ伯林ニ居申候。

来ル土曜日ハ彼ノ有名ナル「モルトケ」將軍⁽⁸⁾ノ九十歳ノ祝日ニ付諸学校ヲ閉ヂ独乙帝ハ他ノ將校ヲ隨ヘテ將軍ノ家ヲ訪問セラル、様子ニ候。之レ全ク人心ヲ鼓舞シテ国家ニ尽スノ念ヲ益々深カラシムルノ為ニ御坐候ト愚察仕候。過日伯林出立ノ節ゲルハルド氏ニ面会致シ小生ノ造リ候プレパラート等示シ申候処大ヒニ喜居候。又アッセル氏ノコト話候処同氏ハ氏ノ親戚ニハ無御坐、只知己ノ様子ニ御坐候。

右用事迄如此ニ御坐候。頓首

十月廿四日 謹之助 拜
御父上様

尚々 御祖母上様、御母上様へ宜敷奉願上候。教女及ビ鑛一君モ書状ヲ認候へば一ノ稽古ニ相成候事ト存候。然シ時間ニ欠亡有之候へば敢テ望ミ不申候。学課ノ勉強專一ニ御坐候。

- (1) Stoffwechsel 新陳代謝。
- (2) akademische Laufbahn アカデミックな経路。
- (3) Hilfswissenschaften 補助的な学問。
- (4) 牛酪 チーズ。
- (5) Herpes zoster 帯状疱疹。
- (6) 後藤 後藤新平。医師。政治家。私費にて明治23年4月より25年6月迄ミュンヘン大学で衛生学を学ぶ。
- (7) 金杉 金杉英五郎。明治20年東大別課卒業。私費にて21年11月より25年4月迄ドイツ留学。
- (8) モルトケ Hermuth Carl Graf von Moltke。プロイセンの軍人。普仏戦争に大勝しドイツ統一に貢献。

(24, 25, 26, 27号信は欠如)

第二十八号信 1891.3.5

去ル一月十日御認メ十三号信并ニ六十八ポンド十五シルリングノプリマヲ替、北里、川島両氏宛御書状及ビ同月十七日御認メ第十四号信并ニ同上セクンダヲ替拜受仕候。

然ハ此度ハ「コッホ氏」ノ報告ニ由テ起リタル世上ノ波動甚盛ナルガ為メニ時機ヲ失ハンコトヲ恐レ余リ早手廻シヲ致シ候為メニ種々ナル御心配ヲ御掛申候段誠ニ恐入申候次第ニ御坐候。

然シ乍ラ独乙ノ文部大臣ゴスレル氏迄モ騒ギ立チ早決断ヲ致シ過シ候位ノ勢ニテ御坐候故、小生等ノ早手廻シモ敢テ理ナキニハ無御坐候。其後既ニ申上候如ク同療法ノ成績ハ余リ面白カラザルガ故ニ小生婦国ノ念ハ其始メ胸中ニ湧出デ候如ク、又速カニ消失致シ候。近日ニ至リ伯林ノLiebreich氏ハKanthandius aures Kaliumヲ喉頭結核ニ用ヒ良功ヲ見候由ニ候へ共此度ハ世上ノ静カナルコト実ニ「コッホ氏」ノ発見ノトキト相反対致シ、恰モ氷点ノ沸騰点ニ於ケルガ如クニ御坐候。「コッホ氏」モ其後世評ノ宜シカラザルガ為メニ暫時「カイロ府」⁽¹⁾ニ保養ノ為メニ旅行致サレ候。同氏ノ薬品ハ去ル二月廿五日ヨリ薬店ニテ売捌キ候事ト相成、名ハTuberculinum Kochii⁽²⁾ト称シ1cbcm(cc)=6 Mark 5cbcm=25 Mニテ六ヶ月中ニ売尽

サマルトキハ再ビ之レヲ伯林ノ Dr Libbertz 氏ニ返却スルコトニ御坐候由。

過日頂戴仕候六十八ポンド十五シルリングハ到着ノ翌日直チニ独乙バンクニ預ケ申候。又北里氏宛御書状ハ礼状ニ御坐候由御申越被遊候故再ビ御返納申候。如何トナレバ其後北里ニハ別ニ世話ニ相成不申故ナリ。川島氏宛御書状モ御返納可仕存候ヘ共用心ノ為メ暫時御預リ置申候。

日本ニテハ「インフルエンツァ」再ヒ流行致候由、欧州ニテハ本年一二ノ患者ハ有之候ヘ共流行ハ致シ不申候。只近日寒暖不定ナルガ為メニ感冒ニ罹ル者多ク御坐候ノミ。

独乙ノ政況ニハ別ニ大変革モ無御坐候。只ピスマルク公ハ某機関ナル新聞紙ヲ以テ政府ヲ評シ、皇帝⁽³⁾ト同公トノ間ハ兎角折合悪ク御坐候。伊国ニテハ御存知ノ通り内閣ノ更迭有之、クリスピー氏去ッテ ルヂニ氏其後任ト相成申候。又過日ハ独乙先帝ノ皇后ノ佛国巴里ニ遊バレ候奇事有之候。同日ニハ「ナポレオン第三世」ノ皇后モ暫時巴里ニ止マレ候由ニテ、則ハチ巴里ヲ領セシ帝ノ皇后ト、巴里ヲ攻落セシ帝ノ皇后ト同日同府ニ入り候事ニ御坐候。ウィクトリア皇后ハ重モニ美術遊覧ノ為メニ巴里ニ至レリトモ、又ハ政事上ノ策略ナリトモ申候。

来ル四月六日ヨリ九日迄ハ Wiesbaden ニ内科のコングレス開会仕候由ニ御坐候。都合ニヨリテハ臨ミ度存居候（マールブルグヨリ大凡四時間）。然シ之レモ前学期中生理局ニテノ Arbeit ノ費用ノ都合ニ御坐候。（当大学ニテハ学期ノ終リニ試験薬、動物、破損セシ器械等ノ費用ヲ払フコトニ相成居申候）

小生写真ヲ取り度存居候ヘ共何分寸暇無御坐未ダ果サズ居申候ヘ共其内撮影可仕候。

先ハ右大略申上度如此ニ御坐候。頓首

三月五日 謹之助 拜

御父上様

尚々恐入候ヘ共御祖母上様、御母上様等ヘモ宜敷御伝声奉願上候。

(1) カイロ府 エジプト首都カイロ。

(2) Tuberculinum Kochii コッホ式ツベルクリ

ン。結核治療に使用。

(3) 皇帝 ドイツ皇帝ウィリアム2世。

第卅二号信（ハイデルベルク）1891.7.27.

六月十九日御認メ第十四号信ハ七月十八日到着拜見仕候。然ハ御母上様御事四月八日ニ於テ御安産被遊候趣大悦至極奉存候。然ルニ急性虹彩炎ヲ御患被遊候ハ誠ニ不意なる出来事ニテ御坐候。殊ニ父上様御不在中ニテハ定テ御心配被遊候御事ト愚察申上候。然レトモ段々御快方ノ由先ハ安心仕候。

四月十五日ハ御父上様御事貴族院議員ニ勅撰被為成候由是亦大悦至極ニ奉存候。

昨年小生ノ予想罷在候通りニ相成候。如此我医学社会ヨリ数多ノ議員ヲ出候ハ我等後進生ニ取りても可賀事ト奉存候。又社会ニ対候ても最早旧来ノ医風を一変せる而已ならず、我医学社会ノ地位ノ高く相成候事を明示するノ事実ト奉存候。

顕微鏡一條ハ経験ある諸専門家ニ問合せ置候ヘ共未タ返答を得不申候故近日中ニハ申上候ヘ共夫レ迄御待被遊被下度候。

病理総論第一巻通覧相終リ申候故御覧ニ入れ申候。可成的従来ノ形を存候積リニテ只方今ノ進歩ニ適せざる所ノミ改正仕候。只黴菌論ノミハ御存知ノ通りノ進歩ニ候故殆ト変更仕候。右篇増補改正ニ付テハ無遠慮筆入れ申候故或ハ父上様ノ御氣ニ相触れ候事もあらんと存候ヘ共學術上ノ事は不得已、明治十三年ニ在テ正しかりし事も明治廿四年ニ在テは正からざる事ニ相成候ハ当然ノ理ニ御坐候故先輩ノ書を我々後進生ガ改正する等は思も寄らざる所ニテ御坐候ヘ共是亦學術進歩ノ然しむる所ニテ不得已候。先ハ御一覽被遊被下、不都合ノ点ハ充分御改正被遊被下候ハ、小生ノ幸ノミならず読者ノ幸ニ御坐候。右第一編ニ必用なる図ノ Cliché⁽¹⁾ハ諸方ニ問合せ申候テ終ニ巴里府書肆 Bailliere & fils の品最良且最廉ト存候故右ノ書肆ニ誂置候。近日中ニ到着可仕ト奉存候間其節ハ直ニ差上申候。右「クリシェー」ハ合計廿四箇ニテ百八十一フラン八十サンチームニ御坐候テ老箇ノ価大凡平均七フラン五十サンチームニ御坐候。其図ハアスカリスノ卵、オクシウリスノ卵、ヒラリ

ア虫、トリヒーネ、トリヒョツェファルスの卵、アンキロストマ虫、ニニヤの類二箇、ボトリオツェファルス虫及び卵、間歇熱プラスモゼウム三箇、アヒョリオンシェーンライニ、ミクロスポロン・フルフル、ヘルベストンズラレス、オエジウム・アルビカンス、痺脱疽黴菌、ゴノコッケン、プノエモコッケン、弟扶斯黴菌⁽²⁾、コレラ黴菌、結核黴菌、アクチノミツェス、以上ニ御坐候。希くは之ニ肺ヂストマの図及び記載をも加度奉存候。例言ニ於て臓器の病変ニ関する図式は病体解剖示要ニ属する図式ニありとの意記載有之候故寄生物の「クリシェー」のミニて他の図は未だ買入不申候。次信ニ於て此件ニ付御教示被遊被下候ハ、幸甚ニ御坐候。小生の経験にては図式を有する書は随て高価なれトモ亦随て有益ニ且ツ世人も好んで読ミ候様ニ奉存候。此度の改版ニは冒頭となる字を少しく大きく御印刷被遊候ては如何ニ御坐候哉、然は大ひニ oversight を得候様ニ奉存候。此次の第二編血液違常編ニハ大ニ困難仕候。如何となれば近來の病理総論ニして是を説く者無く近來の「アルバイト」も此点ニ就ては充分無御坐候。殊ニ化学的の变化ニ至ては誠ニ不分明ニ御坐候故ニ御坐候。然れトモ a priori⁽³⁾ニ考候ても血液の変常ハ可有事ニて病理総論ニて説く可き事と奉存候。希くは血液違常及び熱編を卷末ニ廻し度奉存候。巴里の「ハーエム」氏は血液の事ニ付悉敷候へ共独乙ニは一名も血液ニ悉敷人ハ無御坐候。「エールリッヒ」氏⁽⁴⁾ハ血液の顕微鏡的検査ニハ悉敷候へ共(小生モ漸時氏の許ニ参り申候)化学的变化ニ至ては不詳。然し右の一條研究ニ取掛り可申候。

小生事当地「ハイデルベルク」ニ参り「エルブ」⁽⁵⁾「ホフマン」「チェルニー」「ヒーロルド」「クレペリン」⁽⁶⁾「アルノルド」諸氏を傍聴仕、殊ニエルブ氏ニは尋問を致し病院廻り等ニも同伴仕候へ共何分思はしからず候故再び伯林ニ参り申候積リニ御坐候。只エルブ氏の他の人よりも宜敷事は治療の点ニ重ミを置候事ニ御坐候。元來小生は此地ニ本年未迄止まり直ニ巴里ニ入り候積リニ候処、急ニ目的を變じ伯林ニ参り候事ニ致し申候。然し八月ハ何処モ留守ニ相成候故近傍の温泉研究ニ出掛候

積リニ御坐候。則チ第一温泉及び冷水療法等の方法を講ずるの外患者と共に散歩し、或は東洋の情態を物語リ患者を慰メ、或は其病歴を聞き実験の種と致候ハ、大ニ益ある事と奉存候。殊ニ富有なる患者ハ温泉ニ至候迄諸大家を訪候者多く候故其物語リ処方等ニは面白き事も御坐候可しと奉存候。則ち小生ハ八月十五日頃迄「ハイデルベルグ」滞在、夫より八月末迄温泉廻り九月一日ニハ伯林ニ到着、十一月頃迄止まり夫より巴里ニ参り申候積ニ御坐候。

先は右大略申上度如此ニ御坐候。頓首再拜

七月廿七日

謹之助 拜

御父上様

二白。此百四十、百六十六并ニ百九十六葉ノ処ニ入り候分ハ此ニ封入仕候。如何トナレバ其他ヲ印刷物トシテ郵送仕候故ナリ。

(1) Cliché 写真ネガ。

(2) 弟扶斯黴菌 チフス菌。

(3) a priori ア・プリオリ。経験に基づかない論理的な認識や概念。

(4) エールリッヒ氏 Paul Ehrlich コッホの研究室等を経て自ら血清学研究所を創設。血液学、細菌学、免疫学、化学療法の基礎を築く。ノーベル賞受賞者。

(5) エルブ氏 Wilhelm Heinrich Erb ハイデルベルク大学教授。神経学者。腱反射の診断的意義についての研究を確立。

(6) クレペリン氏 Emil Krempelin ハイデルベルク大学教授。近代精神学の基礎を築く。

第卅三号信 1891.8.11.

拜啓仕候。然は去ル七月二十七日ヲ以テ病理総論第一篇拜呈申置候処、此度ハ夫レニ附属スル「クリシェー」二十五箇(其内結核黴菌ハ彩色ノ為メ二重ニ御坐候。第一第二ト記号仕置候)ヲ万国医学会ノ記録第二第五巻及ビ病院論の間ニ挟ミ箱ニ入レ、間隙ニ不用ノ顕微鏡プレパラート及ビ小冊子数多ヲ詰込ミ郵便ニ付シ申候間御落掌被遊被下度候。「クリシェー」ノ後面ニハ其何物ナルヤヲ記載仕候。顕微鏡ハ御説ノ通り「アボクロマート」

ハ成程宜敷候へ共「ツアエス」自ラ申候ニハ、「アポクロマト」ハ炎暑及ビ湿気ノ多キ地方ニ堪候哉ハ未ダ実験不致由ニテ、且ツ日本迄輸入候迄ハ長キ旅ニ御坐候故保証ハ出来不申、且ツ「アポクロマト」ニハ是非「コンペンザチオンスオクラー」ヲ要シ彼此レ不都合ト奉存候。此度御求めニ相成候ニハ左ノ組立テ宜敷カル可シトノコトニ御坐候。(病理解剖家及ビ黴菌家ノ説)

Zeiss Stativ⁽¹⁾ II mit Abbischen Beleuchtungsapparat

Obj. aa, A, B, C, DD, E, F

Obj. homogene Immersion 1/12

Ocular I, II, IV, V.

Micrometerokular III.

Revolver für 3 Objective

Polarisativuserinrichtung?

Camera

Objectivunikrometer

Blutkörperchenzähler

「ツアエス」氏「スペクトラールオクラー」ハ餘リ用ニ立チ不申由、wasserimmerdion⁽²⁾ハ用ヒ候事稀ニテ其他 Testplate, Dectglastaster 等ハ御随意ニ被遊可クト申事ニ御坐候。又 Blende⁽³⁾ニハ当今悉く Irisblende⁽⁴⁾ヲ用ヒ申候。Zeiss's Catalog No 29 ハ既ニ御手許ニ御坐候哉、然ザレバ差上申候。

小生事明後日ハ Kreuznach, Ems, Neuenatur 等ニ出掛申候テ本月末或ハ来月一二日頃ハ伯林ニ参リ申候。佐々木氏⁽⁵⁾ニハ多分伯林ニテ面会ノ事ト奉存候。

先ハ用事ノミ申上度如此ニ御坐候。頓首

八月十一日

謹之助 拜

in Heidelberg

御父上様

- (1) Zeiss Stativ ツアイス顕微鏡台。
- (2) wasserimmerdion 水浸液。(油浸に対するものか?)
- (3) Blende 絞り。
- (4) Irisblende 虹彩絞り。
- (5) 佐々木氏 佐々木政吉。佐々木東洋の養嗣子。明治12年東大医学部卒業。官命により

24年4月より25年6月迄コッホのツベルクリン療法ノ調査研究ニ出張。26年9月より28年9月迄東大内科教授。(その後任として三浦謹之助が就任)。その後杏雲堂医院院長を継ぐ。佐々木研究所を創設。

第卅四号信 1891.9.14. (ベルリンより)

前略御高免被遊被下度候。然ハ小生儀「ハイデルベルグ」ヨリ「マインツ」ニ出テ「ライン河」ヲ渡リ Kreuznach ニ至リ、夫レヨリ順次 Neuenahr, Ems, Wanerheilanstadt Boppard, Wiesbaden⁽¹⁾, Langenschwalbach, Homburg ヲ巡覽仕リ、夫レヨリハ Frankfurt a/m ニ参リ申候処、佐々木政吉氏ノ竜動衛生会議ヨリ歸途 elektrische Ausstellung⁽²⁾ヲ見ラル、ニ会シ思ハス博覧会内ニ於テ再会仕候。然ル後同氏ハ小生ヨリ早ク伯林ニ歸ラレ小生ハ「フランクフルト」ニテ有名ナル Weigert 氏ヲ問ヒ Nauheim ノ浴場ニ至リ申候処、同処ニハ日本ヨリ来リタル Wagner⁽³⁾ 老翁ニ面会致シ旧ヲ談ジ同氏ノ病ヲ慰メ等致シ、Giessen Marburg ヲ経テ遂ニ伯林ニ到着仕候処、当時佐々木氏ハ維納府⁽⁴⁾ニ行カレ当地ニハ留主ニ御坐候。然シ其他ノ人々宇野、北里、緒方等何レモ在京ニ御坐候。

此度ノ浴場巡リハ大ヒニ小生ヲ益シ申候。同行者ハ米人(バルチモールノ医師)ニ御坐候テ共ニ温泉場ノ医師ヲ問ヒ構造功能浴場ノ歴史等ヲ叩キ、又公園ヲ散歩シ或ハ音楽所ニ行キ患者ニ就テ其病歴入浴後ノ自覚的症狀等ヲ尋ネ大ヒニ得ル処御坐候。同米人モ共ニ伯林ニ参リ只今喉頭病ヲ専修致居候。

「ゲルハルド」翁ハ只今旅行中ニテ面会不仕候へ共、同氏ノ助手「ノールデン」ヲ本日病院ニ訪へ申候処小生ノ再来大ヒニ喜居申候テ今日ハ小生ヲ自家ニ招キ申候。

小生事只今ノ考ニテハ当伯林ニ本年末或ハ来年一月頃迄滞在ノ積リニ御坐候。夫レヨリ佛国巴里ニ参リ度ト存居候。来年二月末ハ則チ修学ノ第二日目ニ当リ申候テ来年一月又ハ本年末ニ巴里ニ参リ候へば佛国ニケ年間止ルヲ得ルノ理ニ御坐候。而シテ尚ホ英国ニケ月ヲ費スノ剰余ヲ得ル事ニ御坐候故只今ノ処ニテハ先ツ如此ク胸算罷在候。

然シ別ニ御説モ御坐候ハ、御教示被遊被下度候。病理総論用「クリシェー」ハ八月中既ニ「ハイデルベルグ」ヨリ差上申候故定テ御落掌被遊被下候事ト奉存候。其後ハ第二第三編ト順ヲ逐ヘ通覧罷在候。

御祖母上様、御母上様其他益御健康ト奉存居候へ共、御母上様水晶体ノ混濁ハ其後如何ニ被為在候哉実ハ心配罷在候。鑛一君益勉強ニ御坐候哉、教女事ハ縫物等ヲ能ク覚申候哉。此ニ一ニ郵便切手ヲ得申候故鑛一君ノ切手集ニ御加ヘ被遊被下度候。

先ハ右大略申上度如此ニ御坐候。頓首

九月十四日 三浦謹之助 拜
Chausseestr. 79 III links,
Eingang Boyenstr. Berlin N.W.
御父上様

(1) Wiesbaden ドイツ ヘッセン州州都。温泉地。

(2) elektrische Ausstellung 電気博覧会。

(3) Wagner ワグナー。ドイツの応用化学者。明治元年来日し日本近代工業の発展に貢献。一時帰国して25年再来日し同年東京にて没す。

(4) 維納府 オーストリア首都ウィーン。

第三十五号信 1891.10.3.

八月十三日御出しの第十六号信(書留)及び同月廿日の第十七号信は共ニ伯林ニテ拜見仕候。同在中の第一及び第二為替券は既ニ独乙銀行ニ預け申候。又大学其他景色の写真数多并ニ御家族の写真、菊尾、八重⁽¹⁾の写真等御送り被遊被下大ニ喜び申候。菊尾及び八重は小生婦朝迄ハ大ニ変り申候事ト奉存候。過日在伯林の清浦警保局長⁽²⁾を訪問仕候節、先年小生の治療仕候小児の写真を出し被示候が大ニ変り居り驚入申候。

○第十七号信ニ御申越被遊候ニは御旅行後暑氣ニ相当り被遊候趣き其後ハ如何被為在候哉実ハ懸念罷在候。

○小生買求メ候書籍は逐々荷量ニ相成候故仏国出発前一應日本ニ送り申度存候。税関等の為め御手

数を願候は誠ニ恐縮ニ御坐候へ共荷の数多く御坐候時は旅行ニ不便なるのミならず、随て費用を高め申候故左様仕度候。同荷物と共ニ父上様御誕生日(十二月)の御祝ニ何か拜呈仕候間御笑留被遊被下度候。

先ハ用事のミ申上度如此ニ御坐候。頓首拜

十月三日 三浦謹之助
御父上様

鑛一君ニ伝言。若シ日本ノ古キ切手端書又ハ帯封御所持ナレバ独逸ノ同品ト交換シテ差上可申候。

(1) 菊尾及び八重 義妹。夫々秀の4女及び5女

(2) 清浦警保局長 清浦奎吾 司法官僚・政治家。明治17年より24年迄警保局長。司法・内務・総理大臣等を歴任。

第卅六号信 1891.11.19.

九月□□日⁽¹⁾御認メ第十八号信拜読仕候。然は其後ハ又々少々「アルバイト」ニ掛り居り、且ツ去ル十四日ヲ以テ差出申候箱荷ノ後ニ書状差出度ト存居候ガ為メ彼此レ相遅レ申候。去ル十四日ニ差出シ申候箱荷ニハ前回申上候通り不用ノ書籍、写真、顕微鏡標本、ギップス及ビ蠟細工(小生ノ学ビ候時自分ノ手及ビ面ヲ取り候者)ノ標本及ビ御父上様ノ坐右ニ御用ヒ遊被候ベキ品等ニ御坐候。御面倒恐入候へ共御受取置被遊被下度候。運賃及ビ保険料等ハ払ヒ済ニ御坐候。又去ル十五日ニハ Lepra, Influenza, Diphterie u. Croup⁽²⁾, Infektion u. Immunitaet 等ト題シ候書差出置候。右ハ御講義ノ材料ニモト存ジ候故ナリ。

○薄葉⁽³⁾ハ未ダ充分ニ御坐候故御送り被遊被下間敷候。

○此度伯林ニ参リ申候ハ「ハイデルベルグ」ノ「エルプ氏」ノ処ニテ不満足ニ覚へ候故ニ御坐候。且又伯林ニテハ見聞致シ候事、地方ヨリハ随テ多ク御坐候故見納メ旁出京仕候事ニ御坐候。

○今後巴里ニ参リ候へは書留郵便ノ宛ハ差当り chez Monsieur le docteur Remy, Rue Léonie 12, Paris ニ致シ候テハ如何ト存候。然ラザレバ「ポ

スト、レスタン」⁽⁴⁾ニテ苦シカラズ候。佛国ノ医学ハ殆ント全ク巴里ニ集リシト云フモ大ナル間違ハ無キ程ニ候故他ノ都会ニハ多分出掛ケ不申積リニ御坐候故巴里ニテハ只今迄ノ如ク居所ハ変シ不申候。「レミー」氏ノ処ヘハ小生宛ノ書状ヲ預リ呉レ候様書状差出可申候。同氏ハ大学ノ人々ノ信用モアリ只今迄モ小生ノ世話ヲ致シ呉レ候故今後モ諸事ヲ頼ミ候積リニ御坐候。

○小生ノ巴里行きハ過日本年末ト申上候へ共、来年一月末迄ハ延引致シ申候哉モ難計キノミナラズ只今ノ処ニテハ延シ候積リニ御坐候間来年一月末迄ハ在独乙ト御承知被遊被下度候。若シ其間ニ巴里ニ至ルニモセヨ小生只今ノ番地ニテ御書状御送り被遊被下候へハ小生ニ達シ候事儘ニ御坐候様致シ置可申候。

○病理総論後編ノ郵送ハ御教示ニ随ヘ相扣へ⁽⁵⁾材料蒐集ニ尽力可仕候。

先ハ大略申上度如此ニ御坐候。頓首再拜

十一月十九日

謹之助 拜

三宅秀様

- (1) 紙の破損により判読不能。
- (2) Croup ギフテリアに見られる窒息性呼吸困難。
- (3) 薄葉 薄い和紙で漉いた便箋のこと。
- (4) ポスト、レスタン 局留郵便。
- (5) 相扣へ 相控え。

(37, 38, 39, 40, 41, 42, 43 は欠如)

第四十四号信 1892.6.20.

五月六日御認第二十五号信及ビ在中第四五七四号

セクンダ為替正ニ拜受仕候。

婦朝ノ件ハ御宅ヨリ出候義ニ無之事ハ数回ノ御書状ニテ委細承知仕候。

過月ヨリ本年末又ハ来年始メニ婦朝仕候テモ宜敷由御申越被遊被下難有仕合セニハ存候へ共昨年末既ニ本年半バニハ婦朝セント決心仕候。ノミナラズ松島艦ノ好便⁽¹⁾モ御坐候故来月ハ必ず婦朝ノ途ニ昇リ可申候。

○御母上様御眼病ハ再発ノ傾有之候事故尚今後モ御用心専一ニ御坐候。

○当地ハ今年時候不順ニテ寒暖不常候へ共之レハ本年欧州各國如此ニ御坐候。小生事ハ不相替健全「シャルコー氏」ニ随学罷在候間御安心被遊被下度候。同氏ハ前々申上候如く小生ヲ待遇仕候事伯林ゲルハルト翁ニモ勝リ候位ニ御坐候。御安心被遊被下度候。先ハ用事迄御返事申上度如此ニ御坐候。頓首

六月廿日

謹之助 拜

御父上様

- (1) 軍艦松島。フランスに注文した防護巡洋艦。回航委員長は鮫島員規大佐（当時）。謹之助は日本に回航する時に便乗を許されて帰国した。御礼に巴里の町を案内した。

参考資料

泉 孝英編『日本近現代医学人名事典 1868-2011』医学書院 2012年

『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社 1994年

『会員氏名録』東京大学医学部鉄門倶楽部 2001年